

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日： 年 月 日

事業所名：猪名寺

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	課題室、自習室等、確保できている。	十分な確保がされていると概ね理解されている	今後も指導訓練室等スペースの十分な確保をしていく。
	2 職員の適切な配置	ご利用者2名につき、職員1名の配置。保育士、心理士、児童指導員の確保ができています。	わからないとの評価が少数ありましたが概ね理解されている	現状適切な配置が確保できているので、今後は保護者様に対しより詳しく配置状況の説明を行う。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	写真や1日のスケジュール提示による、視覚支援等を実施している。	わからないとの評価が少数ありましたが概ね理解されている	現状を継続していき、面談時や通信を通して設備整備の状況をお伝えしていく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	業務終了後、室内やおもちゃの清掃、消毒をしている	生活空間の確保をされていると理解されている	今後も継続していく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	随時、職員でのミーティングを行い情報を共有し、業務改善の積極的な参加をしている。	/	今後も継続していく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	小学校の先生、相談支援員、講師の方などからのご意見、ご要望をお聞きし取り入れる。	/	今後も継続していく。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	定期的に職員研修が実施また個人での外部研修の案内発信。	/	今後も継続していく。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	年2回の保護者面談時に寄せられた、要望、活動時に受ける子どもからのニーズ、課題等の達成度など分析し計画を作成している。	わからないとの意見が若干名がおられたが、年二回の個別面談以外でも普段より相談の時間をもってもらい、要望等組み込み計画作成されているとの意見を頂いている。	今後も継続し、保護者さまには、面談時により詳しくお伝えするように努める。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	各活動毎の支援計画書は作成していないが、子どもの状況に合わせた、活動提供をし活動毎にそれぞれ、目標設定している。		今後も子どもの状況に応じた活動を提供し支援計画に個別・集団活動の取り組みについても織り込んでいくようにする。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	個別支援計画書には、長期・短期の目標と具体的な到達目標、それに対する支援内容、留意点などが記載されている。		今後も継続し、保護者さまには、面談時により詳しくお伝えするように努める。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	目標設定に合わせて支援を行っている。	わからないとの評価が少数ありましたが、概ね理解されている。	面談時に支援計画の目標達成度と支援の内容をより詳しく伝えるようにしていく。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	立案は限られた者が行うが全体の意見は取り入れている。		プログラムが固定化されないように、チーム全体で意見を出し合いながら工夫していく。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	実施している。休日・長期休暇時は社会性、経験等をねらいに、おでかけを増やし集団活動を多く取り入れている。	プログラムについて保護者側の意見を取り入れた楽しいプログラムが多く、満足しているとの意見を頂いている。	今後も、社会性、経験などねらいにおでかけを増やし集団活動を多く取り入れる。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	曜日ごとにプログラム内容を設定。音楽・運動プログラム等も内容を固定せず提供している。		今後も、保護者様などのご意見を取り入れながら楽しいプログラムの構成を工夫していく。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	必ず行っている。		今後も継続してしていく。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	支援終了後には振り返りは行うが、情報・連絡の共有は翌日以降になることもある。		情報・連絡の共有はなるべく翌日に回さず、その日中に行うようにする。
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	個々の連絡帳と実施記録の記入。		現状より正確な記録の徹底を目指す。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	日々のモニタリングを踏まえ、年2回の計画作成時に反映させている。		今後も継続してしていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	参加要請があった場合には参加する。	今後、参加要請を頂いた場合は参加する。	
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	該当する方の利用がない。	該当する方の利用がない。	
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	該当する方の利用がない。	該当する方の利用がない。	
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	学年が統一されているので、小学校への移行時には、園の見学や児童発達支援からの情報提供があり、情報共有がなされている。	学年が統一されている為、児童発達支援事業所からの移行支援は該当しない。	
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	該当する方の利用がない。	該当する方の利用がない。	
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	支援センターとの連携はない。児童発達支援との交流の機会はある。外部専門機関(感覚統合他)の研修参加。	今後も様々な専門機関の研修案内の提供を行う。	
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	交流等の活動の機会は設けていないが、地域の公園へ出かけた際、健常児とのふれあいの機会の場面あり。	健常児との活動の交流の機会は、あまり必要としていない又は必要かどうかわからないとの意見がありました。	保護者さまの意見を踏まえ、健常児との交流の機会を持つことについては、公園遊びなどでの健常児との係りの様子を見ながら随時検討していく。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	イベントへの招待、活動の講師として、店舗へ月1回訪問してもらっている。	現状の係りは継続しつつ、地域の方向けのイベントの実施を検討する。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	利用者負担については契約時に(変更があった場合はその都度)支援の内容については随時お伝えしている。	概ね丁寧な説明があったとの回答。どちらともいえないとの意見もあった。	再度説明の際には、より詳しくお伝えできるようにする。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	半年に1回、面談時に説明している。	概ね丁寧な説明があったとの回答。どちらともいえないとの意見もあった。	再度説明の際には、より詳しくお伝えできるようにする。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	ペアレント・トレーニングを設定した機会は設けていないが、支援の方向性、統一すべき対応等については随時話し合いの機会を持っている。	どちらともいえない、わからない等の意見があった。	利用者様の成長に合わせて、必要に応じて家族支援プログラムの機会を設ける。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	毎日の連絡帳及び送迎時での伝達をしている。	日頃より情報共有し、共通理解ができていると評価を頂いている。	今後も情報共有し共通理解、徹底に努める。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	個別に対応している。	個別対応の為、ご希望のない方については、わからない、どちらともいえないとの意見もあったが、面談や助言等密にしてくれているとの評価もあった。	必要に応じての個別対応とは別に面談時などでも積極的に子育ての悩みなどお聞きするようにする。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	父母の会の活動支援は行っていないが、親子交流会にて、保護者同士の連携の場を設けている。	どちらともいえないとの意見が多数あった。	親子交流会開催時、連携の場を設けるだけでなく、保護者様同士が交流できる機会にする。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	保護者様よりご意見があった場合、その日中に対応している。	対応できているとの意見が多数あり。	今後ご意見(苦情)があった場合、迅速かつ適切な対応ができるようにしていく。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	子どもには障害に応じた対応(視覚支援等)保護者様には、連絡帳や送迎時での伝達、必要に応じて個別での対応。	情報伝達等の配慮がなされているとの評価が多数あった。	今後も継続していく。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	毎月発行している通信にて発信している。	SNSでの活動報告、毎月の通信発行の内容に満足しているとの評価を頂く。	今後も継続していく。
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	ブログ等写真掲載等は加工するなどの配慮と保護者さまの承諾書を頂いている。その他個人情報の取り扱いについても十分に注意し対応している。	概ねしっかり管理されているとの評価	今後もしっかり管理徹底していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	保護者様には防犯マニュアル以外のマニュアルを配布している。職員については各マニュアルを提示し、周知徹底している。	緊急時対応等のマニュアルは完ぺきで書類もわかりやすく役立つものであるとの評価を頂いている。	定期的にマニュアルを見直し、変更点等があれば、修正し、改訂版の発行・配布を行う
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	定期的には実施はできていないが、災害についての話、避難時の注意など、活動の中に取り入れている。	定期的に行われているかわからないとの意見があった。	子どもの災害に対する恐怖心に考慮しながら、定期的な避難訓練を実施していく。
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	事業所内で虐待防止委員を設置し、会議等の参加や職員間の情報共有によるミーティングを定期的に行っている。		今後も継続していき、職員の虐待に対する認識を高めていく。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	該当する方の利用がない。		
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	該当する方の利用がない。		
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	事例集は作成していないが、記録はしている。職員間での情報伝達・共有は都度行い、防止策などの対応も行っている。		ヒヤリハット事例集の作成を行い、今後も職員間での情報共有徹底を継続していく。